



1 導入の趣旨及び要点

導入の基本的な考え方

次の考え方を踏まえて、高学年に「外国語」が導入されました。

- ・「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて、小学校中学年から外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高める。
- ・高学年からは、「聞くこと」「話すこと」に、発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて、総合的・系統的に中学校への接続を図ることが重視された。

目標の構成

外国語で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

また、この三つの資質・能力の下に、英語の目標として「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「読むこと」「書くこと」の五つの領域を設定し、言語活動を通して、外国語を用いたコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしています。

内容の構成

新学習指導要領

従来、高学年で行われていた「外国語活動」の内容は、「コミュニケーションに関する事項」と「言語と文化に関する事項」で構成されていました。

【知識及び技能】

- (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

今回導入された外国語科では、外国語教育において育成を目指す資質・能力が確実に身に付けられるように、**【知識及び技能】**及び**【思考力、判断力、表現力等】**で構成しています。

【思考力、判断力、表現力等】

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項
- (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

「**学びに向かう力・人間性等**」については、目標に示しています。

学習内容

中学年の外国語活動や中・高等学校における学習内容との接続の観点を踏まえています。

○「知識及び技能」

実際に外国語を用いた言語活動を通して、音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、「読むこと」「書くこと」に慣れ親しみ、五領域による実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。

○「思考力、判断力、表現力等」

具体的な課題などを設定し、目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合う力の基礎を養う。

○音声と文字を関連付けた指導

「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、音声と文字を関連付けて指導する。

2 小学校外国語科における授業づくりのポイント

Point 1

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしましょう。

外国語科では、具体的な活動などを設定し、児童が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況等を意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現等の知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ることが大切です。

〈主体的な学びの視点〉

- ・ 単元などの内容や時間のまとまりの中で、身近で簡単なことを題材として、外国語を用いたコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する。
- ・ 単元などの内容や時間のまとまりの中で、学習の見通しを立てる場面を設定する。
- ・ 単元などの内容や時間のまとまりの中で、学習したことを振り返って、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

〈対話的な学びの視点〉

- ・ 単元などの内容や時間のまとまりの中で、他者との外国語を用いたコミュニケーションによって、自分の考えを友達の考えと比較したり、新たな考えを知識として取り入れたりする場面を設定する。

〈深い学びの視点〉

- ・ 知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考、判断、表現を繰り返すことで、学習の内容の理解が深まるようにする。

Point 2

言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動を大切にしましょう。

外国語教育における学習過程は次のように示されています。

①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。	②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。	③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。	④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。
---------------------------------	--	----------------------------	----------------------------

言語活動を行う際には、「単元または1単位時間の初期段階」で言語活動を通して聞いたり話したりするなど、英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させることが大切です。

その上で、「単元または1単位時間の後期段階」においては、設定された場面の中で、自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開するなどの学習過程の工夫が大切です。

また、学習過程の中心となる言語活動には次のような活動があります。

○話すこと〔やり取り〕の領域に応じた活動例

- ・ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動

○話すこと〔発表〕の領域に応じた活動例

- ・ 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動 など

Point 3

「慣れ親しみ」から「定着」への流れを意識しましょう。

高学年では、中学年の外国語活動で音声を中心にして扱い慣れ親しんだ簡単な語句や、基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ることが大切です。授業、単元、年間の指導の中の言語活動を相互に関連付け、場面や活動などを替えながら類似の言語活動を繰り返し行う中で、定着を図っていきましょう。

Point 4

言語材料は平易なものから難しいものへと段階的に指導しましょう。

言語材料の指導については、一般的に平易なものから難しいものへと段階的に指導することが大切です。学習の基礎の段階では、単純な文構造を取り上げ、学習が進むにつれて、複雑な文構造を主として取り上げるようにすることが大切です。その際、児童の学習負担や学習の進捗状況を考慮し、必要に応じて平易なものを再学習してから難しいものに取り組むなどの配慮も必要です。



1 導入の趣旨及び要点

導入の基本的な考え方

次の考え方を踏まえて、中学年に外国語活動が導入されました。

- ・「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて、**小学校中学年から外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付け**を高める。
- ・高学年からは発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて**総合的・系統的に中学校への接続を図る**ことが重視された。

目標の構成

外国語活動で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことと言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め日本語と外国語の音声の違いに気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

また、この三つの資質・能力の下に、英語の目標として「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」の三つの領域を設定し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成することとしています。

内容の構成

従来、高学年で行われていた「外国語活動」の内容は、「コミュニケーションに関する事項」と「言語と文化に関する事項」で構成しています。

新学習指導要領では、外国語教育において育成を目指す資質・能力が確実に身に付けられるように、【知識及び技能】及び【思考力、判断力、表現力等】で構成しています。

「**学びに向かう力・人間性等**」については、目標に示しています。

新学習指導要領

【知識及び技能】

(1) 英語の特徴などに関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項
- (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

学習内容

内容については、高学年の外国語科や中・高等学校における学習内容との接続の観点から踏まえ、次のように設定されました。

○「知識及び技能」

実際に外国語を用いた言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違いなどに気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

○「思考力、判断力、表現力等」

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

○言語活動で扱う題材

我が国の文化や、外国語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。

2 小学校外国語活動における授業づくりのポイント

Point 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしましょう。

外国語活動では、具体的な活動などを設定し、児童が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況等を意識して活動を行うことが大切です。そして、英語の音声や語彙、表現等の知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが大切です。

〈主体的な学びの視点〉

- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、身近で簡単なことを題材として、外国語を用いたコミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。
- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、学習の見通しを立てる場面を設定する。
- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、学習したことを振り返って、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

〈対話的な学びの視点〉

- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、他者との外国語を用いたコミュニケーションによって、自分の考えを友達の考えと比較したり、新たな考えを知識として取り入れたりする場面を設定する。

〈深い学びの視点〉

- ・知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考、判断、表現を繰り返すことで、学習の内容の理解が深まるようにする。

Point 2 英語に慣れ親しむ活動や友達との関わりを大切にした体験的なコミュニケーションを行いましょ。

外国語活動においては、チャンツ(英語の単語や文章をリズムに乗せて表現したもの)や歌を通して英語のリズムに慣れ親しませたりする活動や自分や身近な話題に関して友達とやり取りをしたりするコミュニケーションを行うことが大切です。

このような体験的な活動やコミュニケーションを通して、児童はコミュニケーションを図る楽しさを体験し、高学年の外国語科に向けてのコミュニケーションを図る素地を養うことができます。

Point 3 中心となる言語活動を設定し、学習過程全体を意識して単元や授業を構築しましょう。

外国語活動における言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動」のことを意味します。

中心となる言語活動を設定し、次のような学習過程全体を意識して単元や授業を構築することが重要です。

○外国語教育における学習過程と具体例(単元「身の回りのものに関するクイズを出し合う」)

<p>①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。</p> <p>(例) 児童が単元の学習の見通しをもつように、教師やALT等が、単元終末で行うコミュニケーション活動をモデルとして提示する。</p>	<p>②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。</p> <p>(例) クイズを出し合うために必要と思われる簡単な語句や、基本的な表現を様々な活動を用いて学習し、尋ねたり答えたりできるようにする。</p>	<p>③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。</p> <p>(例) 単元の終末として児童それぞれが、ペアやグループなどで、身の回りの物を当てるクイズを出し合う活動を行う。</p>	<p>④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。</p> <p>(例) 単元の最後に自己評価による振り返りを行い、英語と日本語の言い方の相違点などに気付いたり、友達とのやり取りを通して自分や友達のクイズの面白さや工夫などについて感じたりしたことを記録したり発表し合ったりする。</p>
--	---	--	---



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- 各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、**小学校の学びとの接続**を意識しながら目標を設定した。
- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う**対話的な言語活動を重視**するとともに、具体的な課題等を設定するなどして学習した語彙や表現等を**実際に活用する活動を充実**させる。

目標の構成の改善

外国語科の目標は、三つの資質・能力を明確にしたうえで、「各学校段階の学びを接続させる」「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする観点から、改善・充実が図られています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

また、この三つの資質・能力の下に、英語の目標として「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「読むこと」「書くこと」の五つの領域を設定し、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしています。

内容の構成の改善

今回の改訂では、外国語教育において育成を目指す資質・能力が確実に身に付けられるように、**【知識及び技能】**及び**【思考力、判断力、表現力等】**で構成しています。「**学びに向かう力、人間性等**」については、目標に示しています。

現行学習指導要領

- (1) 言語活動
ア 聞くこと
イ 話すこと
ウ 読むこと
エ 書くこと

- (2) 言語活動の取扱い

- (3) 言語材料

新学習指導要領

【知識及び技能】

- (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項
- (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

学習内容の改善・充実

具体的には、次のように改善を図りました。

○互いの考えや気持ち等を伝え合う対話的な言語活動の一層の重視

「話すこと〔やり取り〕」の領域を設定するとともに、言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げ、語、文法事項等の言語材料を効果的に関連付けた言語活動とする。

○語彙の増加、文、文構造や文法事項の追加

語彙は、小学校で学習する600～700語に加えて、1600～1800語程度になり、表現をより適切でより豊かにするための文、文構造及び文法事項が追加された。

2 中学校外国語科における授業づくりのポイント

Point 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしましょう。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが大切です。

その際、生徒が外国語による「コミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることのできる具体的な課題や場面を設定しましょう。また、五つの領域（「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「読むこと」及び「書くこと」）のバランスや領域を組み合わせた言語活動を行いましょう。

〈主体的な学びの視点〉

- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、日常的な話題や社会的な話題を題材として、外国語を用いたコミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。
- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、学習の見通しを立てる場面を設定する。
- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、学習したことを振り返って、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

〈対話的な学びの視点〉

- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、他者との外国語を用いたコミュニケーション（対話や議論等）によって、他者との違いに気付いたり、自分の考えを確かにする場面を設定する。

〈深い学びの視点〉

- ・単元など内容や時間のまとまりの中で、生徒が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。
- ・より質の高い深い学びにつながるように、具体的な課題や場面を設定するなど、外国語を用いた言語活動を効果的に位置付ける。

Point 2 授業は英語で行うことを基本としましょう。

生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場とするため、生徒の理解度に応じた英語を用いて授業を行うことが大切です。

Point 3 外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程を設定しましょう。

外国語教育では、次のような学習過程が提示されています。

①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。	②目的に応じて情報や意見等を発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。	③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。	④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。
---------------------------------	---	----------------------------	----------------------------

外国語科では、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切です。

Point 4 言語活動を行う中で、「思考力・判断力・表現力等」を育成しましょう。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項が今回新たに新設されて、次の三つの内容に示されています。

○聞いたり、読んだりして必要な情報や考えをとらえる力の育成

目的や場面、状況等に応じて何を読み取ったり、あるいは聞き取ったりしなければならないかを判断する場面を設定するなどといった、指導内容をより焦点化する。

○得た情報や考えを活用し、話したり書いたりして事実や自分の考えや気持ちなどを表現する力の育成

得た情報を整理し、どのように表現するかを考えさせ、様々な方法で発信する場面を設定する。

○伝える内容を整理し、「関心のある事柄」について即興で情報を交換したり、伝え合ったりする力の育成

メモ書きなどを利用して内容を整理して即興でやり取りをする活動を取り入れたり、やり取りを通して学びを深めていくような場面を設定する。